「CAN-DO リスト」で授業を変える！

（その２）

～「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標　Ｑ＆Ａ①～

「ＣＡＮ－ＤＯリスト」の形での学習到達目標作成のねらいは、授業改善です。リストを作成することだけが目的ではなく、リストと単元や授業との関わりを明らかにして、授業等に生かしていくことが求められます。特に次の視点で授業を行うことを目的にしています。

・生徒が身に付ける能力を明確化し、指導と評価の改善に利用する。
・４技能を総合的に育成し、自らの考えを伝える能力、思考力・判断力・表現力を養う。
・教員と生徒が目標を共有し、主体的に学習する態度・姿勢を生徒が身に付ける。

「ＣＡＮ－ＤＯリスト」の形での学習到達目標については、様々な質問が寄せられています。回答を含め２回に分けて　Ｑ＆Ａ　形式で紹介します。

＊以降、「ＣＡＮ－ＤＯリスト」の形での学習到達目標を「ＣＡＮ－ＤＯリスト」と略記します。

Ｑ　国、県として様式を示さないのか？

Ａ　現在のところ示されていません。会津教育事務所ＨＰ「教科の部屋」英語の参考資料で下図のようなものを例示しています。また、県教育委員会高校教育課のＨＰにも、会津域内５校の例が掲載されています。ぜひ参考にしてください。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標例

○○○○立△△中学校

	第１学年	第２学年	第３学年
聞くこと Listening	○身近な話題の会話において、他の発言を理解し、あいづちなどを打つことができる。 ○　・・・ ○　・・・	○身近な話題の会話において、他の発言を理解し、適切なあいづち等を打つことができる。 ○　・・・ ○　・・・	○相手の話す内容に応じて適切なあいづちを打ったり、分からないところを聞き返したりすることができる。 ○　・・・ ○　・・・
話すこと Speaking	○【発表】自己や他についての紹介を 30 語程度のスピーチを行うことができる。（原稿あり） ○【会話】ALT とのインタビューで、しっかりと応答することができる。 ○　・・・ ○　・・・	○【発表】インタビューした結果やグラフ等を見て要点をしっかり押さえて説明することができる。（原稿あり） ○【会話】ALT とのインタビューで、双方向の情報のやりとりをすることができる。 ○　・・・	○【発表】自分が得た情報を、即興で要点をはずさずに伝えることができる。（原稿なし） ○【会話】ALT とのインタビューで、双方向の情報のやりとりを正確な英語で行うことができる。 ○　・・・
読むこと Reading	○【内容理解（黙読）】120words 程度の英文を、40wpm 以上のスピードで読み、概要を捉えることができる。 ○【音読】１年教科書本文をゆっくりでも正しく音読することができる。 ○　・・・	○【内容理解（黙読）】160words 程度の英文を、60wpm 以上のスピードで読み、概要を捉えることができる。 ○【音読】２年教科書本文を、発音に気をつけて正しく音読することができる。 ○　・・・	○【内容理解（黙読）】250words 程度の英文を、70wpm 以上のスピードで読み、概要を捉えることができる。 ○【音読】３年教科書本文を、発音やリズムに気をつけて感情を込めて音読することができる。 ○　・・・
書くこと Writing	○　自分のこと、身近なことであれば、３文以上の英文を書くことができる。 ○　・・・ ○　・・・	○　自分のこと、身近なことを中心に、４文以上のつながりのある英文を書く事ができる。 ○　・・・	○　様々なことについて、５文以上のつながりのある英文を書くことができる。 ○　・・・ ○　・・・

上の例のように各学年末段階での、「聞く」「読む」「話す」「書く」４技能について、「～できる」という能力記述文で示すことになります。４観点で言えば、「外国語表現の能力」（話す・書く）「外国語理解の能力」（聞く・読む）の２観点のみについて作成することになります。英語教育にかかわる者全員で作成しましょう。

Q　能力記述文はどのように作成するのか？

A　能力記述文とは、英語を使って何ができるようになるかを「～することができる」という形で具体的に記述したものです。

能力記述文作成に当たっては、まず、学習指導要領の外国語科及び英語の目標に基づく必要があります。また、言語活動の指導事項が各技能で５つずつ示されているのでそれも参考になると思います。

なお、学年毎の目標は、「どのような条件なのか」「どの程度か」「どのような内容か」などによって段階に分けたものを設定するのもよいでしょう。

（能力記述文の例）

- 与えられたテーマについて、メモなどを参考にしながら、短いスピーチをすることができる。
- 自分に関心のある様々な話題について、簡単なつながりのある文章を５文程度書くことができる。

Q　学習到達目標は、全ての生徒に達成させなければいけないのか？

A　学習到達目標は、全ての生徒が達成すべき目標です。しかし、学力差が大きい学校では、全生徒が学習意欲を維持するように、能力に応じた目標を設定するなどの工夫も必要です。

例えば、設定した６項目のうち①～③は全生徒に求め、④～⑥については、目標に近づくように学習意欲を維持させながら、達成を目指すというように設定するのもよいでしょう。

Q　一つの技能にいくつの項目を設定したらよいか？

A　一概にいくつが目安とは言えません。指導や評価ができないものは設定しません。生徒の実態により、実行可能性を考え、無理のない範囲で設定しましょう。

なお、以下の資料に詳しい説明が記載されています。

＜参考資料＞

・各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き

文部科学省初等中等教育局　平成２５年３月

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm

H26.8.1